



尾山台小だより

11月号

学校教育目標【明るい子 考える子 たくましい子】

～確かな学力を身に付け、心豊かにたくましく生きる児童の育成～



〔尾山台小ホームページ〕<http://www.city.ageo.lg.jp/site/oyamadai-elementaryschool/>
または、「上尾市」ホームページ→「上尾市立幼小中学校」→「尾山台小学校」をクリック

間違いを恐れず。間違いから学ぶ。

校長 熊坂 由美子

『教室はまちがうところだ』（蒔田晋治 作、長谷川知子 絵）という絵本があります。生活集会で子供たちに読み聞かせをして紹介しました。全国の学校で愛され続けてきた詩が絵本になったものです。間違いを恐れて手を挙げられない気持ち。ようやく手を挙げても、いざ指名されるとドキドキして、思っていたことが言えなくなってしまう気持ち。そんな、誰もが経験したことのある気持ちを表現している絵本です。絵本の後半では、「まちがうことをおそれちゃいけない」と励まし、間違う中で「ほんとのものを見つけていくのだ」「そうしてみんなで伸びていくのだ」と語りかけてくれます。

今年度も半分が終わりました。本校の子供たちにとった自己評価アンケートでは、「授業は集中している」けれど、「発表は進んでできていない」という傾向が見られました。生活集会では、この絵本の読み聞かせの後に、授業中、誰かが間違えたなら、それはみんなの学習が深まるきっかけになるから、「間違えてくれてありがとう」と考えると良いということをお話しました。間違いをきっかけに「自分も同じように考えてた。何が違うのかな」とか、「なぜ、そういう間違いをしたのかな。きっと、こんなふうに考えたからかな」とか、色々と意見を出し合うことができるからです。「だから、間違いを笑ったり、馬鹿にしたりはしないこと。間違いは誰でもするのが当たり前。間違いから学ぶのだ」ということ。そして、学校とは、みんなで意見を出し合って深め合える場であること。だから、せっかく学校に来たのだから、一日に一回は発表することを目標にしよう」と語りかけました。子供たちは、真剣に耳を傾け、うなずいたり、「はい」と返事をしたりしながら聞いていました。

ビジネス用語に「トライアンドエラー」と言う言葉があります。これは和製英語で、正しくはトライアルアンドエラー (trial and error) と言うことになりますが、意味としては、何かを試みる (trial)、間違い (error) を繰り返して、試行錯誤していくということです。ここで大切なことは、やみくもにやり直すのではなく、何かに失敗し、もう一度試すときには「何が悪かったのだろうか」「どうすればもっとうまくいくのだろうか」と考える行動が大切で、この視点が加わってこそ、トライアンドエラーが成り立つということです。

間違いを恐れず、間違いから学ぶ。大人でも難しいことですが、本校の子供たちには、そんなことができる人になってもらいたいと思います。

「人権の花」運動・・・上尾市人権擁護委員会の方から、パンジーとスノーポールの苗、チューリップの球根、プランター、培養土を寄贈いただきました。

6年生と委員の方が一緒に苗を植え付けました。水やりは6年生が担当し、大切に育てています。北校舎の中央玄関近くで、綺麗に咲いています。

